

突然訪れる危機的な状況

- 支援会議で話し合った内容をもとに、来所時や班別活動時の手順を見直すことで、のぞむさんの生活は少し落ち着いたかに見えました。
- しかし、2週間ほど経ったある日の、午後の自立課題の時間に事件は起きました。休憩時間から自立課題にうまく切り替えることができず、のぞむさんは廊下を唸り声を出しながら行ったり来たりしていました。そして、そこにたまたま通りかかった他の利用者に、大声を上げて突然掴みかかりに行っただのです。
- 危険を感じた職員が間に割って入りましたが、のぞむさんに強く突き飛ばされてしまい、さらに騒ぎは大きくなってしまいました。別の部屋にいた職員が駆けつけ、2人がかりで抑えて静養室に移動させたことで何とかその場は収まりましたが、移動の間に興奮するのぞむさんともみ合ったため、抑えた職員ものぞむさんも何ヶ所か打ち身と裂傷を負ってしまいました。
- のぞむさんは静養室でもなかなか落ち着かず、部屋にあったものを強く投げつけたり引っ張ったため、部屋のいすや、設置してあったスケジュール表などが完全に壊れてしまいました。

記録と評価 | なぜ記録が必要なのか

変化を把握する

- 強度行動障害のある人の状態はさまざまな環境の影響を受けて変化する。
- 場面による行動の違い、週・月・年単位での行動の変化がある。
⇒客観的な記録があることによって、職場内や他職種との共通理解が図りやすくなる。

原因を考える

- 必ずしも支援の計画を立てる段階で、背景にある原因を考えるのに十分な情報があるとは限らない。
⇒支援計画を立てて実施した後も、情報を収集して、それを元に支援を再検討する必要がある。

記録と評価 | 変化を把握する

変化を把握するための記録

1. 問題となっている行動に着目する

例) 頻度、強度、持続時間

2. 記録する時間帯や場面等を決める

例) 1日を通して、時間の区切りごとに、場面ごとに

3. 継続できるように工夫する

例) 既にあるものを活用する、置く場所、期限を設ける

期間を決めて変化をまとめる

■ ひとめでわかるように整理する

例) 折れ線グラフ、一覧表

記録と評価 | 原因を考える

関連しそうな情報を集める

- 障害特性やスキルをもう一度調べる
例) 苦手なこと、得意なこと、できること、できないこと
- 生活全体の状況を確認する
例) 家庭・家庭の状況、生活のパターン
- 生理・医学的な情報を収集する
例) 睡眠、病気、服薬、周期的な変化

できているとき・できていないときの環境を詳しく見る

- 問題が生じた前後の状況を整理する
例) 機能的アセスメント (機能分析、ABC分析)

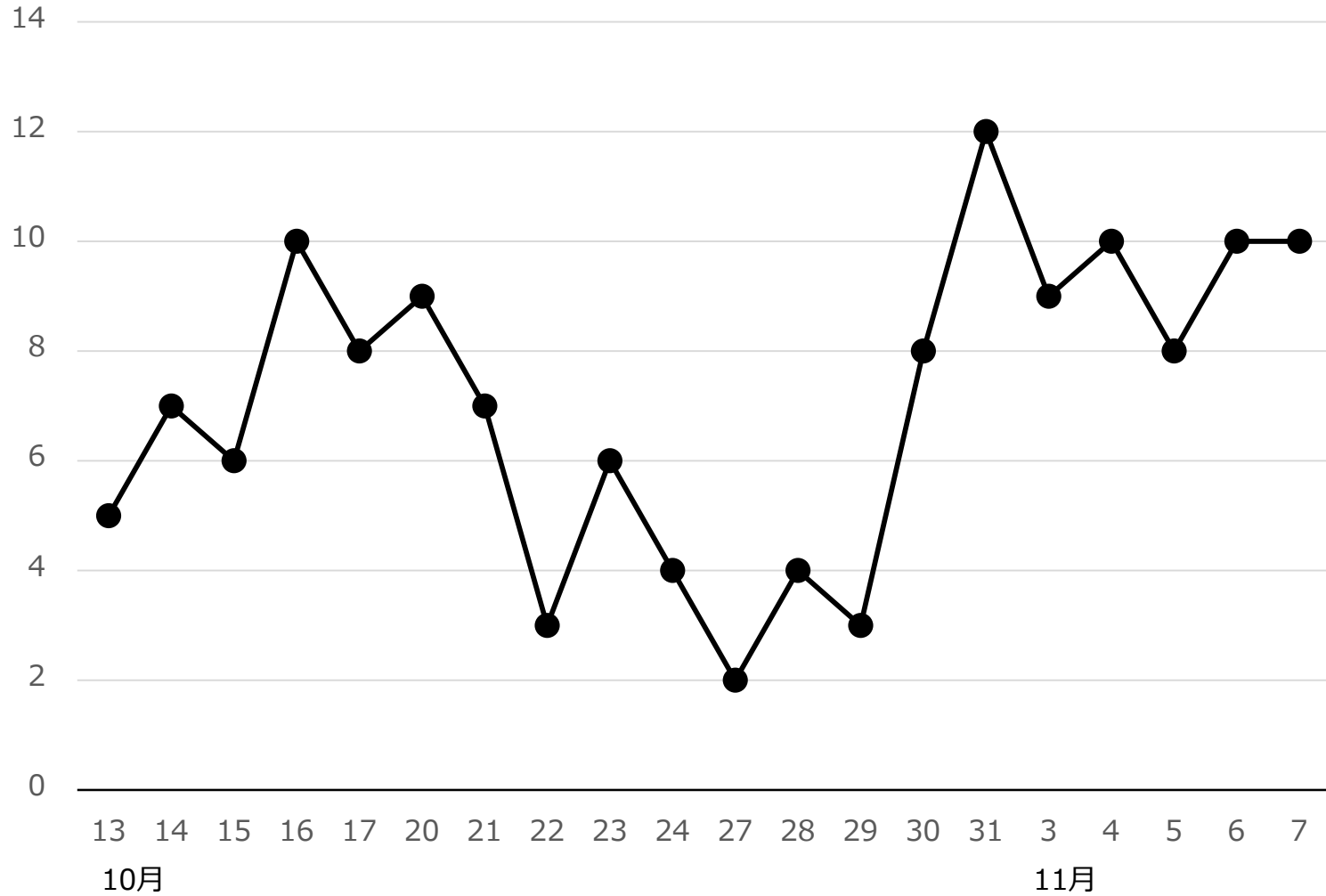
さんの行動記録

- 他の利用者に掴みかかる・・・●
- 危険を感じた・未然に防いだ・・・○
- その他の攻撃等・・・×



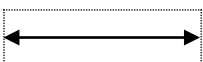
活動	10/13 (月)	10/14 (火)	10/15 (水)	10/16 (木)
来所・準備	●	○	×	
班別活動①				
お茶休憩	● ● ×		○ ○	
班別活動②		× ×		
昼食・昼休み	○		● ○	● ○
散歩				
自立課題		●		
帰り	○ ×			● ○

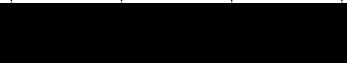















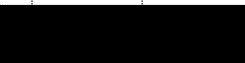











さんの行動記録

■ 他の利用者を突き飛ばした回数



さんの生活記録

 ぐっすり寝た
 うとうとしていた
 寝てはいないが横になっていた

日	曜日	2	4	6	8	10	12	14	16	18	20	22	24			
1	土															
2	日															
3	月							●  通所  ●								
4	火					●  通所  ●										
5	水					●  通所  ●										
6	木						●  通所  ●									
7	金															
8	土															

__月__日の__高崎のぞむ__さんの行動記録

起きた場面・状況	起きた行動	行動の後に起きたこと
<ul style="list-style-type: none"> 9:50頃、活動に向かう途中 〇〇さんが大声を出しながら廊下を行ったり来たりしていた 気にする高崎さんに職員（××）が制止して作業室に促した 	<ul style="list-style-type: none"> 〇〇さんを気にして近づこうとした 職員にされると興奮が高まり壁を蹴った 	<ul style="list-style-type: none"> 職員（××）の誘導で作業室に移動し、作業に取り組むことができた 作業をしているうちに興奮は治まった
<ul style="list-style-type: none"> 13:00過ぎ、散歩前のトイレ 入れ違いに〇〇さんがトイレから出てきた 	<ul style="list-style-type: none"> 突然、〇〇さんに頭突きをした 	<ul style="list-style-type: none"> 職員（△△と××）が制止 静養室に誘導され、落ち着くまで一人で過ごした（約30分）

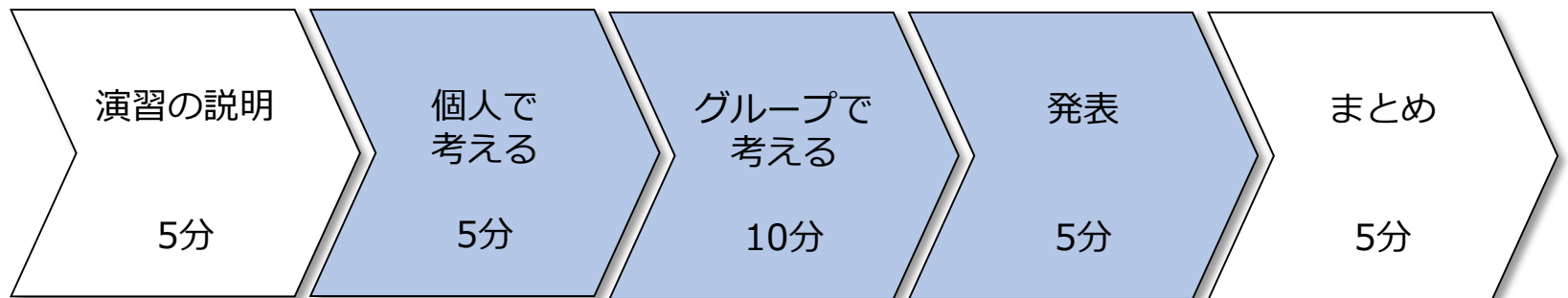
※関連しそうなその他の情報

- 前日の夜は寝付きが悪く、睡眠時間が4時間程度。
- 最近、睡眠が乱れているとの母からの情報あり。

演習① | 必要な情報を考える

- 「司会」は⑥、「記録」は⑤、「発表者」は②、の人が役割を担当します。
- エピソード「突然訪れる危機的な状況」を読み、今後の支援を考えるために、どのような情報を集めればよいか考えましょう。

【演習の流れ】



演習① | 突然訪れる危機的な状況

- 支援会議で話し合った内容をもとに、来所時や班別活動時の手順を見直すことで、のぞむさんの生活は少し落ち着いたかに見えました。
- しかし、2週間ほど経ったある日の、午後の自立課題の時間に事件は起きました。休憩時間から自立課題にうまく切り替えることができず、のぞむさんは廊下を唸り声を出しながら行ったり来たりしていました。そして、そこにたまたま通りかかった他の利用者に、大声を上げて突然掴みかかりに行っただのです。
- 危険を感じた職員が間に割って入りましたが、のぞむさんに強く突き飛ばされてしまい、さらに騒ぎは大きくなってしまいました。別の部屋にいた職員が駆けつけ、2人がかりで抑えて静養室に移動させたことで何とかその場は収まりましたが、移動の間に興奮するのぞむさんともみ合ったため、抑えた職員ものぞむさんも何ヶ所か打ち身と裂傷を負ってしまいました。
- のぞむさんは静養室でもなかなか落ち着かず、部屋にあったものを強く投げつけたり引っ張ったため、部屋のいすや、設置してあったスケジュール表などが完全に壊れてしまいました。

演習① | 必要な情報を考える

【各自】

1. こうした状況がこれからも生じると想定したときに、今後の支援を考えるうえで、どのような情報を「欲しい」「集めたい」と思いますか。できるだけたくさんワークシート（WS-5）に書いてみましょう。

【グループ】

2. 1) 個人で考えた「欲しい」「集めたい」情報をグループ内で発表。
2) グループ内で「欲しい」「集めたい」情報をまとめる

演習① | 必要な情報を考える (例)



演習① | まとめ

予防的な対応 | 起きないで済むような環境づくり

危機介入 | 本人・周囲の利用者・職員の安全を確保する

記録と再アセスメント | 記録の対象と方法を決めて情報を収集する

仮説をイメージする

何を記録するかを考える

実際に記録をとる

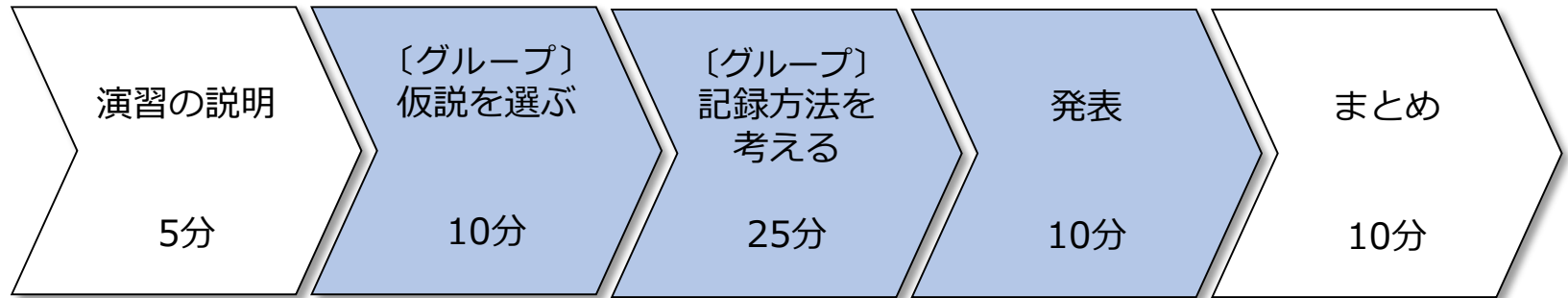
記録の方法を考える

チームによる支援の再検討 | チームの目で再検討・共有する

演習② | 記録の方法を考える

- この時間は、具体的にどのような情報について、どのような方法で記録するのかをグループで考える時間です。
- 再度、「突然訪れる危機的な状況」を確認しましょう。
- グループワーク後には発表の時間があります。2～3グループに発表をお願いします。

【演習の流れ】



演習② | 記録の方法を考える

1. 危機的な状況が生じた原因として、次の3つの仮説が浮かび上がってきました。グループで話し合っ、どの角度から記録方法を考えるのか、1つを選んでください。

仮説1 : 睡眠や排便、服薬などの生理的・病理的な背景が関係しているのではないか。

仮説2 : 前兆となる行動やきっかけ、起きた後の対応など、そのときの状況から探れないか。

仮説3 : 場面や時間帯、曜日など、何かパターンや周期があるのではないか。

演習② | 記録の方法を考える

2. 選んだ仮説に基づいて、「どのような行動（あるいは情報）について」、「どのような記録を取るのか」を具体的に考え、記録フォームのイメージをワークシート（WS-6）に作ってみましょう。

※ 必要があれば「情報シート」を参照してください。

※ 「○○という行動がある」と想定して、記録方法を考えていただいても結構です。

3. その記録は実際に取ることができそうですか？どれくらいの期間つけるのか、誰が記録するのか、継続して記録できる工夫を考えてみましょう。

演習② | 記録の方法を考える

4. 話し合った内容を発表しましょう。
 - ※ 2～3グループに発表していただきます。
 - ※ 作成した記録フォームはスクリーンに写します。

演習② | 記録の方法を考える (例)



演習② | まとめ

予防的な対応 | 起きないで済むような環境づくり

危機介入 | 本人・周囲の利用者・職員の安全を確保する

記録と再アセスメント | 記録の対象と方法を決めて情報を収集する

仮説をイメージする

何を記録するかを考える

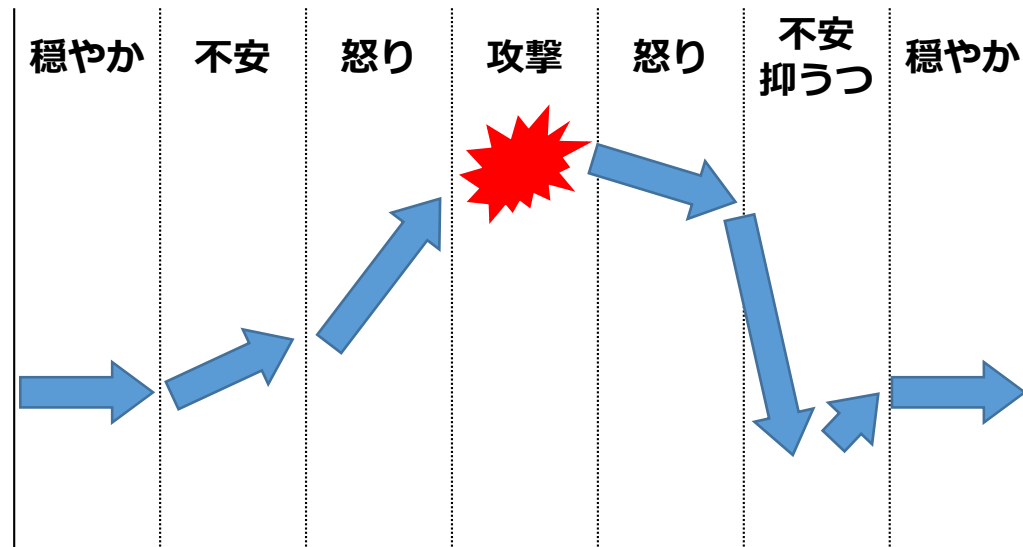
実際に記録をとる

記録の方法を考える

チームによる支援の再検討 | チームの目で再検討・共有する

危機介入 | 原則とその方法

- 安全確保が最優先であり、指導・支援の機会ではない
- エスカレートする前・表面化したときの対応を予め考え、スタッフ間で共有しておく
 - 例) 包括的暴力防止プログラム (CVPPP)
 - 例) 非暴力的危機介入法®



包括的暴力防止プログラム認定委員会 (2005) を参考に作成

危機介入 | 身体拘束の考え方

身体拘束実施の3要件

切迫性	非代替性	一時性
利用者本人又は他の利用者等の生命、身体、権利が危険にさらされる可能性が著しく高いこと	身体拘束その他の行動制限を行う以外に代替する方法がないこと	身体拘束その他の行動制限が一時的なものであること

やむを得ない身体拘束（危機介入）のその後

- “危機”であれば繰り返して良いのか
- 緊急であっても身体拘束 ≠ 適切な支援
- 連続性の錯覚〔野沢, 2006; 野沢, 2007; 基礎研修テキストp.98〕

参考文献

危機介入

- 包括的暴力防止プログラム認定委員会「医療職のための包括的暴力防止プログラム」医学書院, 2005

障害者虐待の防止

- 野沢和宏「知的障害と社会①なぜ人は虐待するのか～障害のある人の尊厳を守るために～」有限会社Sプランニング, 2006
- 野沢和宏「条例のある街－障害のある人もない人も暮らしやすい時代に－」ぶどう社, 2007

機能的アセスメント

- 井上雅彦・小笠原恵・平澤紀子「8つの視点でうまくいく!発達障害のある子のABAケーススタディーアセスメントからアプローチへつなぐコツ」中央法規出版, 2013